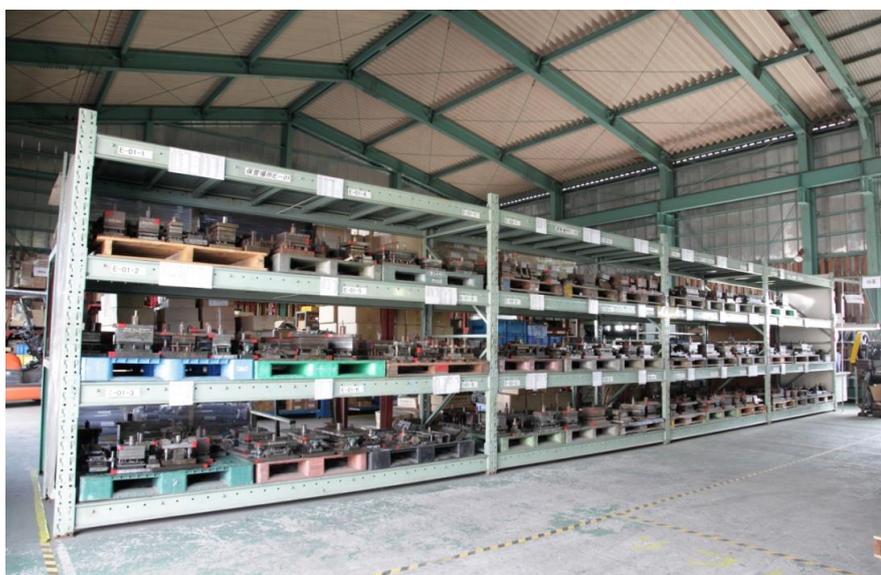


EA21 環境活動レポート

2020年度版

《2020年2月～2021年1月》



株式会社 石崎製作所

発行日：2020年3月5日

作成：野上英明



株式
会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

I 事業活動の概要

事業所名： 株式会社 石崎製作所

代表取締役： 石崎 一徳

所在地： 本社
東京都台東区今戸1丁目5番19号
TEL03-3871-1861 FAX03-3874-8620

環境事務局： 野上 英明

連絡先： TEL:03-3871-1861 FAX:03-3874-8620
e-mail:nogami@ishizaki-ss.com

事業概要： 金属・加工金属製品等製造業

事業規模： 資本金 1,000万円

社員数 34名

事業所数:2カ所

本社
東京都台東区今戸1丁目5番19号
TEL03-3871-1861 FAX03-3874-8620

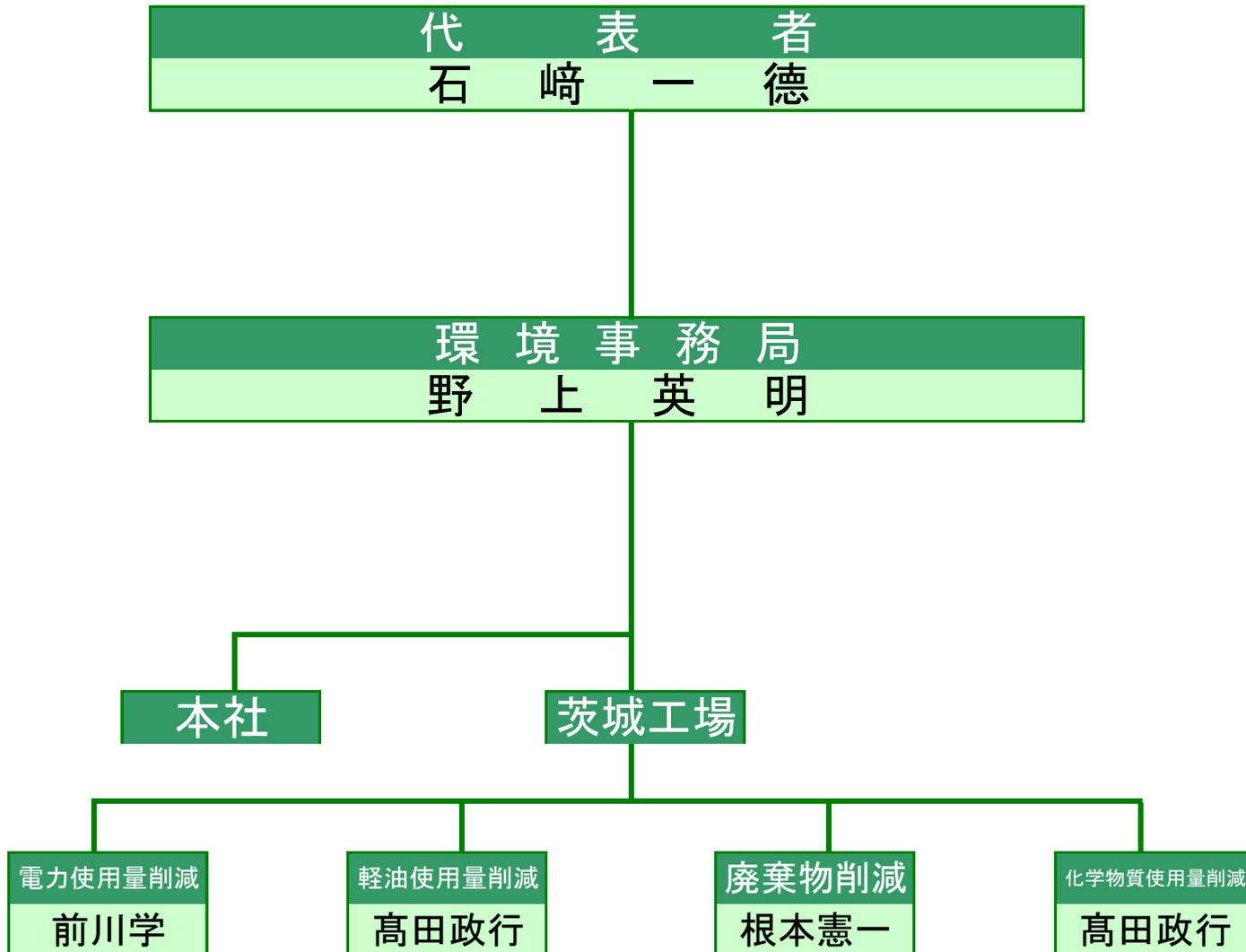
茨城工場
茨城県小美玉市部室1199-12
TEL0299-48-0273 FAX0299-48-0388

対象範囲:全組織、全事業所



株式会社石崎製作所 環境経営組織図

作成日：2020年3月5日



代表者：	基本方針の策定、見直し及び全従業員への周知
	環境管理組織の指名
	代表者による全体の取り組みの評価と見直し
	課題とチャンスの明確化
	環境活動レポートの承認
環境事務局：	EA21の統括、代表者への報告。EA21環境会議実施、環境活動レポートの作成
	環境管理組織の指名責任者を兼務とする
	EA21の維持、管理、データ集計。
電力使用量削減担当者：	削減の為の方法の検討。
軽油使用量削減担当者：	軽油使用量の集計、報告。 削減の為の方法の検討。
廃棄物削減担当者：	削減の為の方法の検討。
化学物質使用削減担当者：	化学物質使用量の集計、報告。 削減の為の方法の検討。





Ⅱ 環境保全方針

環境保全方針

《 基本理念 》

(株)石崎製作所は事業活動が地域及び次世代の環境に及ぼす影響を考え、環境にやさしい製品作りに重点を置き、得意先様ひいては社会に貢献することを目標とし、環境保全に努めるものとする。

《 基本方針 》

1.次の環境保全の重要項目に対して環境目標を設定し取組み、必要があれば見直しを行います。

- ① 二酸化炭素排出量削減(電力、燃料消費の削減)
- ② 廃棄物の排出抑制と適正処理(一般廃棄物及び産業廃棄物排出量の削減)
- ③ 化学物質使用量の削減
- ④ 水使用量の削減
- ⑤ 環境に配慮された製品の製造
- ⑥ 社員の技術力向上と5S活動による社員の意識改善

2、環境関連の法規則、条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

3、この環境保全方針を全従業員に周知し環境教育活動を推進します。

2019年4月5日

株式会社 石崎製作所
代表取締役 石崎一徳



株式会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

Ⅲ 環境目標と実績

① 目標達成状況

※基準年は2019年2月～2020年1月

《 全 社 》

取り組み項目	基準年(2019年度実績)	2020年度目標	2020年度実績
CO2排出量削減 ①+② (CO2) (kg-CO2)	48,276	47,793	44,090

《 茨城工場 》

取り組み項目	基準年(2019年度実績)	2020年度目標	2020年度実績
電力消費量の削減(kWh)	78,505	78,505	67,830
軽油燃費の向上(km/ℓ)	9.2	9.2	9.3
一般廃棄物の削減(40ℓ袋)	1,683	1,683	1,350
水使用量削減(m ³)	293	293	364
化学物質不使用の継続 (トリクロエチレン)	200	0	0

② 中・長期目標

※基準年は2020年2月～2021年1月

取り組み項目	2020年度(基準年度)	2021年度目標	2022年度目標	2023年度目標
CO2排出量削減 ①+② (CO2) (kg-CO2)	44,090	維持	維持	維持
①電力消費量の削減(kWh) (CO2) (kg-CO2)	67,830	維持	維持	維持
	29,100			
②化石燃料使用量の削減(ℓ) (CO2) (kg-CO2)	6,052	3%減	3%減	3%減
	14,990			
水使用量の削減(m ³)	364	維持	維持	維持
一般廃棄物の削減 (40ℓ/袋)	1,350	1%減	2%減	3%減
化学物質不使用の継続 (トリクロエチレン)	—	管理	管理	管理
環境配慮製品の提案(件)	1件	1件	1件	1件

※排出係数は0.429Kg-CO2/kwh

※環境目標、活動計画経営環境の変化に応じて随時改定可能とする

※本社は電気、水を利用していますが自宅兼なので算出していません。



IV 主要な環境活動計画の内容

①電力使用量削減

- デマンドシステムを利用した電力の見える化
- 事務所・現場等の昼休み時間の消灯
- 空調設備を定期的に清掃・点検する
- 空調設備の過剰使用をさけ適切な温度を保つ
- 昼休み時、事務所の空調を切る
- トイレ不使用時の電気の消し忘れ撲滅
- 作業を離れる際は電気設備のON・OFFをこまめに行う。

②ガソリン・軽油使用量の削減

- 燃料給油・走行距離数のチェック表を作成・記入する
- 急発進急加速の禁止を遂行する
- オイル交換等、定期的な車両の整備を行う
- 効率的な配送ルートを計画・実行する
- 空気圧のチェック

③一般廃棄物の削減

- ミスプリント等の裏面利用
- ごみの持ち帰り推進

④水使用量の削減

- 小まめな開閉(流しっぱなしにしない)
- 節水の啓蒙活動

⑤化学物質使用量の削減

- プレスオイルの変更(揮発性の高いオイルへの変更)
- トリクレンから別の洗浄剤に変更する

⑥環境配慮製品

- クロムフリー材への切替提案



V 環境活動の取組結果の評価・次回取組内容

- ① 電気使用量については売上が昨年比で88%とダウン。売上、受注量ダウンでそれに比例して電力使用量も減少したのは昨年までの電力使用量削減の為取り組んできたことが継続されてきているためだと思う。
また、夏の猛暑で使用量も増加していますが無理に節電ではなく効率よく電気を使用していくように指示していきます。
次年度は現在の取り組みを継続する。
- ② コロナ禍ということもあり車で営業に行かなくなったことと、本社での乗用車の使用頻度が著しく減少したことと、ハイブリット車に変更したことで本社の乗用車の燃費計画は今後の計画から外すことにする。
また、工場のトラックはルート配送なので使用量は売上が減少しても著しく減ることが無いので引き続き燃費を維持する為の取り組みをします。
- ③ 一般廃棄物削減についてはゴミ袋の使用量を削減することができた。
売上減少にともない材料の仕入れも減少しています。よって仕入れ部材の緩衝材等のゴミが減少したことが大きな要因です。
また、ウォーターサーバーの利用が増えて、ペットボトルの利用が減少したことも要因の一つです。
次年度はゴミ袋の使用量を1%削減します。
- ④ 水使用量については昨年から124.3%UPと増加しました。
バレル作業の内製化とウォーターサーバの利用推進を進めているのが原因です。
次年度は本年度の水使用量維持を目標に計画を立てていきます。
- ⑤ 化学物質使用量削減については2019年6月のトリクレン購入を最後に新規洗浄剤に変更することが出来ました。2020年度はゼロで推進しました。
本製品は乾燥率が悪くなかなか乾かないので作業の効率悪化に直結しています。良い薬品があったら見直すことも視野に入れるていきます。
- ⑥ 本年度もクロムフリー材の提案ができました。営業のスポット案件での提案ですので新規量産品の立ち上げの時はさらに提案していきます。
クロムフリー材の使用量を計画に落としています受注量と直結するので次年度は計画自体を見直すべきと考えます。



株式
会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

VI 環境関連法等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

①適用される主な環境関連法等の遵守状況の確認及び評価
環境管理責任者により問題ないことを確認した。

②違反・訴訟等

2020年度において環境関連の違反、訴訟等は過去3年間ありません
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去ありません。

VII 代表者による全体評価と見直しの結果

2020年度は二酸化炭素排出量を大幅に低減させる事が出来ました。
受注量が昨比の88%とダウンしたことにより電気使用量が減少したことが大きな
要因です。ただ、今まで取り組んできたことが引き続き出来たことが受注量ダウンと電気使
用量が比例して減少した結果だと思えます。

また、水使用量が増加した原因は、バレル作業を内製化したことと工場内にウォーターサー
バーを設置して、夏場の水分補給を自動販売機の飲料ではなくウォーターサーバーから水
分補給をすることが定着してきたことが良かった点です。

それに伴い、ペットボトルの購入、持ち込みが減少した結果だと思えますが、一般ごみの量
が減少しました。受注減に伴い仕入部材が減少したことが梱包材(養生)が減少してきてい
ます。養生の過剰梱包はメーカーサイドも協力してくれて少なくなってきました。引き続き
継続していきます。

全員参加の活動として「安全衛生活動」の仕組みを4年前より刷新して継続しています。
社員各自が責任を持って行動する習慣がついてきたのが仕事上にも影響してきていると思
いますので引き続き推進し、従業員の意識を更に高めみんなで安全に作業が出来る環境
を作っていきます。